



# オアシス

文責：副学長  
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2019年5月21日発行 第13号

本アカデミーも令和元年度がスタートしました。例年と違い、元号も新たになると気持ちも切り替えが必要な気がしています。何事もマンネリ化を防ぐ意味合いでも、過去にとらわれずに一つ一つの事業が活性化されるよう取り組みたいものです。

5月の大型連休が明けて間もなく、幼児科の入校式（11日）と本科の入校式（12日）が開催され、それぞれの新生たちも希望を胸に、本アカデミーでの活動に取り組んでくれることと思います。幼児科では、学長による弾き語りやリトミックを中心に講師陣の演奏も加わり、和やかな入校式となりました。一方、本科の入校式では、厳かな雰囲気の中、本科在校生による Jr.コーラスと Jr.オーケストラのメンバーに加え、別科オーケストラレパートリーの皆さんの協力を得、華やかな歓迎演奏でスタートすることができました。

今年度も、この「オアシス」を通して、本アカデミーの様子や音楽雑感等をお伝えしていきたいと思っています。発行時期は不定期になるかもしれませんが、今年度もよろしくお願いいたします。

## ◎ 修了式で各講座を締めくくりました！

4月は、本アカデミーの修了月でした。幼児科では、うらら館のごえんホールを貸し切り、修了式を行いました。講師の皆さんがリードしながら講座で学んできた歌や動作を楽しそうに表現しました。皆勤賞の発表や修了証書の授与では、1年間学んできたことの達成感を味わうかのように、満足そうな笑顔が見られました。また、本科オーケストラコースから、3人によるヴァイオリン演奏が始まると会場が静まり返り、幼児科の皆さんもお兄さんお姉さんの素晴らしい演奏に聴き入っていました。

本科の修了演奏会となる「ファミリーコンサート」は、音楽入門コース、合唱コース、オーケストラコースの3部構成でプログラムが生まれ、1年間の集大成としての発表を披露しました。まずは、本科 Jr.オケ在籍の“中林桃子”さんによるヴァイオリン独奏で開演前のひと時を楽しんでいただきました。1部は、音楽入門コースの合唱・鍵盤ハーモニカ・リコーダーによる発表が行われ、初めての舞台演奏にもかかわらず、緊張しながらも立派な態度で演奏を乗り切りました。2部は、最初に合唱コースの Jr.コーラスによる発表で、講座でコツコツと取り組んできた難曲を見事に歌いあげました。次に、別科のコーラスレパートリーの皆さんによる合唱が披露されました。ご高齢の方々が多く在籍されており、懐かしい邦人作品を朗々と歌いあげ、大人の合唱の魅力を存分に発揮していただきました。3部は、オーケストラコースのストリングアンサンブル

## 幼児科修了式



## 本科修了式



(SE)が初めての舞台に臨み、アンサンブルの楽しさを十分に堪能していました。また、そのSEに入門オーケストラが加わることで、オーケストラの醍醐味を味わうかのようにのびのびとした演奏をいたしました。

最後のプログラムは、本科オーケストラコースの最終過程となるシンフォニーオーケストラ(SO)が、フランスの作曲家による歌劇から、2曲を壮大なスケールで披露し、自信に満ちた演奏に成長の跡がうかがえました。

どのコースも会場から大きな拍手をいただき、受講生たちの大きな励みとなったことは言うまでもありません。1年間受講生たちを支えていただいた関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。

コンサート終了後には修了式が開催され、18名の受講生に修了証書が授与され、それぞれの立派な挨拶と共に、本アカデミーを巣立っていきました。



修了おめでとう!



## ◎ 生演奏を堪能してきました!

個人的なことですが、本アカデミーの修了式を終えてからオーケストラの生演奏を2公演聴くチャンスがありました。その時の感じた様子を紹介します。

1つ目の公演は、ニューヨークを拠点に活躍する「オルフェウス室内管弦楽団」にソリストをピアノの“辻井伸行”氏とヴァイオリンの“三浦文彰”氏を迎え、とても贅沢な演奏会を堪能してきました。オルフェウス室内管弦楽団は、指揮者を置かない楽団としても有名ですが、指揮がない分、奏者が五感を使って演奏する姿は聴衆をも引き込むすごみを感じられました。また、会場は指揮者の故カラヤン氏が監修されたサントリーホールでしたが、特にピアノの音響が絶妙でした。

2つ目の公演は、指揮者の“パーヴォ・ヤルヴィ”氏率いる「エストニア・フェスティバル管弦楽団」にソリストをヴァイオリンの“五嶋みどり”氏を迎えたとても豪華な組み合わせの演奏会でした。このオーケストラのメンバーは、パーヴォ・ヤルヴィ氏のもとに世界中から集まったフェスティバルオーケストラです。各奏者の持ち味を指揮者が十分すぎるほど引き出し、奏者は奏者でオーケストラであっても究極のアンサンブルを生み出すという前代未聞の初めての体験でした。その個性的なオーケストラを世界的な奏者である五嶋氏が見事にリードし、会場からも拍手が鳴りやまぬ盛況ぶりでした。

2つの公演のソリストは、いずれも日本人です。オーケストラのメンバーにも邦人の姿が多く見受けられました。今やクラシック界も世界的に日本人が多く活躍していて、同じ音楽を愛する者にとってとても誇らしく感じました。

10月には、“五嶋みどり”氏を迎え、出雲公演が決まりました。そのうえに、本人による本アカデミーでの公開レッスンの計画も進行中です。大いに刺激を受けましょう!

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <http://izumo-zaidan.jp/academy/>】

